

インフルエンザパンデミックの前及び最中に於ける優先的 公衆衛生学的介入に関する WHO 専門家会合【抜粋】

より良いワクチン — より良いアクセス

1. 季節的インフルエンザ、パンデミックインフルエンザ何れにとっても、これに起因する発病と死亡を予防するには、ワクチンが唯一の最も重要な手段である。
2. パンデミックが始まった段階で適切なワクチンを持っている国はないであろう。パンデミックウイルスを分離してから初回ドーズ生産に至る迄には最低4-6ヶ月必要である。その後の増産は段階的である。予め備蓄するというオプションはない。
3. ワクチン生産能力は、パンデミック以外の年のワクチン需要に左右され、結果として限りがあり、現状はパンデミックに対し適切とはいえない。現在世界生産の90%以上がヨーロッパと北米にあるが、これは世界人口の10%以下を満たすに過ぎない。
4. 世界のワクチン生産能力が不適切である限り、平等なワクチンへのアクセスは不可能である。ワクチン生産能力を持たない国はワクチン不足の被害を直ちに受けるであろう。何故なら、ワクチン生産能力のある国は、少ない供給を自国の為にとっておくに違いないからである。
5. パンデミックウイルスに対するワクチン生産は、その開発、ライセンスリング、生産、出荷に緊急性が要求される点で特殊な面がある。
6. パンデミックワクチンの速やかな大量生産に対して、知的財産権、生産工場に於けるバイオセフティ要件、臨床試験の調整と財源、等の大きな制約がある。これらの制約については、国際的に問題にする事が解決の早道である。
7. 各国政府が自国の問題として考えなければならないのは、安全性がはっきりしない新しいワクチンを大量使用する際の、ライセンスリング手続き、試験、並びに、企業責任の問題である。
8. 供給量上げる為の短期的解決法は、抗原量を少なくし、抗原性を上げる為にアジュバントを使用し、一部の生産工程をアウトソ

ーシングすることである。その他、パンデミックになり得る可能性のあるウイルスサブタイプに対するワクチンのパイロットロットを準備する事が挙げられる。しかし、企業にとっては、決して使われないかも知れない製剤に投資するのであるから、その財政的裏付け或いは他の動機付けが必要となろう。

9. 公共資金は、先ず、サブタイプ共通で、免疫が長期持続するワクチンの開発に向けられるべきである。長い目で見ると、数種のパンデミック候補株を予防するワクチンの開発が、効率が良いであろう。これにより、備蓄が一つの選択肢として挙がってくる。
10. パンデミック以外の年により沢山のワクチンを使えばワクチン生産能力は上がるが、これは、インフルエンザが各国で他の保健健康関係重要事項に比べどの位重要かで決まる。パンデミック年以外でワクチン使用を増やす方策として、地域的なワクチン生産戦略と購買構造につき考える必要がある。
11. 各国は、予め、ワクチン供給に限度がある場合の接種優先集団をどれにするか、ワクチン供給が上がって来た場合の接種対象者をどう広げるか、について決めておかなければならない。
12. 途上国のワクチン製造者は国際製薬協会のワクチン供給作業部会に参加すべきである。